

地域トピックス

～地区センターからの話題をお届けします～

◆食の知恵を手作りで —綾織町—

快適な田舎暮らし講座（あやおり夢を咲かせる女性の会など主催）の1回目は5月8日、綾織地区センターで行われました。地域に伝わる食の知恵を学ぶ同講座の今年のテーマは「米」。この日は20人が参加してよもぎもち作りを行い、「八十八夜に食べると中風にならない」などの言い伝えを学びながら旬の味を楽しみました。同講座では今後も、米粉を活用した料理や麴作りなどを実習する予定です。



よもぎもち作りのコツを教わる参加者の皆さん

◆幻想的な夜を楽しむ —土淵町—

土淵町山口地区にある薬師様の宵宮祭は5月1日、山口の水車小屋前駐車場で行われ、地域住民や観光客ら60人でにぎわいました。祭りでは、遠野を代表する観光名所の1つでもある山口の水車小屋を今年初めてライトアップ。満開の桜に映えるかやぶき屋根の水車小屋の幻想的な姿をバックに、山口さんさ踊りが奉納されました。ライトアップは5月の連休中続けられ、訪れた多くの人の目を楽しませていました。



水車小屋の前で山口さんさ踊りを奉納



パラグアイの暮らしや魅力について語る菊池明雄さん

「拓心」の思いを古里で語る —緑峰高開校記念講演会開催—

遠野緑峰高校（藤井洋治校長、生徒231人）開校記念講演会は5月1日、同校体育館で行われ、パラグアイ特命全権大使の田岡功さん（66）と元国際協力機構（JICA）パラグアイ事務所職員で小友町出身の菊池明雄さん（61）が、同国での活動を紹介しました。講演会には全生徒のほか、父母など合わせて300人が聴講。徳島県出身の田岡さんは、15歳で移民し小麦や大豆栽培などで農業発展に貢献したことなどを、14歳で移住した菊池さんは、JICAでの活動や、現地での暮らし、文化、古里への思いなどを熱く語りました。



句碑を前にあいさつする小水内スエさん

生前の功績しのぶ憩いの場 —佐々木北斗さんの句碑建立—

前遠野俳句会会長の故佐々木北斗さんの句碑除幕式は5月9日、附馬牛町の小出橋公園で会員や地域住民など約50人が参加して行われました。句碑は、同会の小水内スエさん（93）＝青笹町＝からの寄附により市が建立。北斗さんの「農一家 御神楽殿に 来て昼寝」の句が刻まれ、その隣には小水内さんの「万緑を 展べてまじかの 早池峰山」の句が刻まれた副碑も建てられました。小水内さんは「北斗さんはとても素晴らしい人でした。この場所が多くの人に愛される憩いの場となることを望みます」と話していました。



綾織町の満開の桜を楽しみながらゴールを目指すメンバー

直義公の足跡たどり遠野へ —八戸・遠野ウオークリレー—

八戸市民有志12人で結成した「八戸から遠野まで歩こう会」（阿部久雄代表）は4月29日から3泊4日をかけて、382年前に南部氏22代直義公が国替えのために歩いた遠野までの道のり約200kmを踏破しました。挑戦したのは、39歳から72歳までの男性9人と女性3人。八戸を出発したメンバーは、軽米、二戸、玉山、紫波と、当時と同じルートをたどり遠野入り。ゴールとなった南部神社前では遠野市民50人が出迎え、偉業達成を祝いました。阿部さんは「皆さんの優しさに感動です。ありがとう」と涙をぬぐい、感慨無量の様子でした。



382年前の姿に仮装し入部行列に参加する歩こう会の皆さん

おいしく育てブルーベリー —宮守町の迷岡農園で植樹祭—

遠野ブルーベリーの森（株）が主催する「植樹祭」は4月29日、宮守町の迷岡農園で行われました。宮守と鱒沢の幼稚園・保育所の園児とその家族ら約70人が参加し、ブルーベリーの苗木40本を植樹。母親と参加した土澤柗太君（5）＝宮守町宮守＝は「上手に植えることができました。大きくおいしく育つのが楽しみです」と笑顔を見せました。迷岡農園は附馬牛、綾織に次ぐ同社3カ所目の農園で、約2畝の畑に2千本を植栽する予定。来年度には市内でブルーベリーの摘み取り農園の開設も計画しています。



力を合わせてブルーベリーの苗木を植える親子

初めての体験にドキドキ！ —シイタケの植菌作業を体験—

原木シイタケ植菌体験会（出遠野市シルバー人材センター主催）は5月9日、遠野小学校で行われ、同校4年生とその保護者53組がホダ木作りに挑戦しました。木材の有効活用と食育を目的に行われた体験会では、同センターの会員5人が作り方を指導。児童らは直径5cm、長さ45cmのコナラの木110本に電動ドリルで慎重に穴を空け、菌の入った木製の栓を一つ一つ丁寧に打ち込みました。阿部永幸君は「栽培方法を初めて知りました。うまくいけば来年春には収穫ができると聞き、今からとても楽しみです」と汗をぬぐいました。



シイタケの菌を植えるための穴を慎重に空ける児童ら